

## 聾学校小学部における「総合的な学習の時間」の取り組み

本 多 理 絵 (愛知県立ひいらぎ養護学校)  
都 築 繁 幸 (愛知教育大学障害児教育講座)  
(2005年10月31日受理)

### Practice of Integrated Learning in the School for the Deaf at the Elementary Level

Rie HONDA (Hiiragi School for the Motor Handicapped)  
Shigeyuki TSUZUKI (Aichi University of Education)

**要約** A聾学校小学部において「総合的な学習の時間」を平成12年度から3年間にわたって実践した。本稿では、そのうちの第1年次のものが報告された。平成12年度には4, 5, 6年生の児童を対象に「総合的な学習の時間」をスタートさせた。「総合的な学習の時間」の設定にあたり、すでに先行的に実施している通常の小学校の実践を参考にし、聴覚障害児の興味・関心がどのようなものなのか、どういった活動が展開できるのか、といったことを探りながら進めた。聴覚障害児の実態として受け身的である、調べ学習が身につけていない、表現する力が弱い、自ら疑問をもつことが少ない、等が挙げられた。このような実態から聴覚障害児の身のまわりの生活の中から題材を選び、じっくり取り組む時間を設定し、児童の周りの生活用品や遊び道具、植物や生物、食事などを題材とし、生活経験を活かして活動に取り組みやすくした。また聴覚障害児が主体的に行動できる行事をこれらの題材と関連づけ、体験的な活動を多く取り入れた。このような活動設定により聴覚障害児が主体的に活動できる機会をもち、意欲を高めていくことが示された。

**Keywords** : 聴覚障害児, 聾学校, 小学部, 総合的な学習の時間, 生活経験の重視

#### I はじめに

聾学校小学部では、小学校に準ずる教育がなされていることから「総合的な学習の時間」が設定され、取り組みが進んでいる。このことは、毎年開催されている聴覚障害教育分野の実践的研究の集会である全日本聾教育研究大会の平成10年度大会以来、発表されていることにも反映しており、多くの教師が関心をもっている。平成12年の第36回大会では、「総合的な学習の時間」の分科会が設けられ、発表数も11件と増加しており、そのうち小学部の実践は8件発表されている。このように聾学校においても「総合的な学習の時間」は、従来からの関心事であった自立活動や言語指導、他の教科の指導法と同様に、その支援の在り方や内容等を研究していく必要があると認識され始めた。当初の報告は、「総合的な学習の時間」の捉え方や取り組み方といった位置づけに関する事柄が多かったが、その後は実践そのものの発表が主流となってきている。

「総合的な学習の時間」の導入により、各々の聾学校では、様々な角度から取り組んでいる。検討課題としては、「総合的な学習の時間」とは何か、聴覚障害児にとって「総合的な学習の時間」とは何か、聴覚障

害児にとっての「生きる力」とは何か、この時間で目指す子どもの姿は何か、教育課程にどのように位置づけるか、教科・領域とどのように関連付けるか、活動の名称や内容をどうするのか、等があげられる。平成12年度の時点では実践に関する評価について検討したものは見られない。まだ試行錯誤の段階であり、まずどのように設定し取り組んでいくかといった点に重点がおかれているためである。

そこで聾学校小学部における「総合的な学習の時間」の在り方を検討するために、聴覚障害児にとっての「生きる力」とはなにか、その「生きる力」を育成するためにはどのような支援が必要か、等の観点から平成12年度から平成14年度の3年間にわたって実践的研究を試みた。

本報告では、そのうちの平成12年度の実践を述べる。

#### II 計画

平成12年度は、A聾学校小学部に在籍する4, 5, 6年生の児童を対象に70時間(週2時間)を設定し、実践を開始した。

表1に平成12年度の年間指導計画を示す。

表1 平成12年度年間指導計画

学期	単元・題材	目 標	活 動 内 容
I	学習を始めよう	◇総合的な学習の時間においてどんな学習を進めていきたいか、自分なりの目標をもつ。 ◇興味・関心をもっていることについて発表し合い、活動の取り組みへの意欲をもつ。	・総合的な学習の時間について ・興味・関心をもっていることについての発表 ・興味・関心をもっていることについて考え、調べる学習 ・活動の取り組み方について
	社会見学；修学旅行 行こう（4年） へ行こう（5,6年）	◇自分たちの身の回りの事柄や、生活にかかわることを調べる。 ◇社会見学に出かけ、調べたことについて理解を深める。 ◇調べたことや社会見学での体験を、自分たちの生活の中で生かす意識をもつ。 ◇自分たちで見学の計画を立て、計画を実行するための準備をする。 ◇修学旅行に出かけ、自分たちの立てた計画を実行する。 ◇修学旅行で見えたことや調べたことを、自分たちの生活と比較し、さらに調べてみたいことを見つけ研究する。	・自分たちの身の回りの事柄 ・生活にかかわっている地域の施設、公共の施設について ・社会見学における学習 ・施設で働く人々や施設のしくみについて ・地域の施設が生活の中で果たしている役割について ・施設を利用する意識 ・見学の目的地の選択 ・見学の計画と準備 ・見学経路についての調べ学習 ・修学旅行における計画の実行と反省 ・修学旅行における調べ学習 ・調べたことの発表 ・昔と現代の建築物の比較 ・調べ学習の進め方
	自然に親しもう（1）	◇学級園を利用して野外活動の食材を育て、自分たちの口にしていくもののでき方について関心をもつ。 ◇川の流れや石の様子、植物についてなど、自然について調べたいことを見つける。 ◇グループごとに調べ学習を進め、野外活動で実際に自然にふれる経験をとおして理解を深める。	・学級園におけるジャガイモ、ナスなどの食材の栽培 ・自分たちの食生活と食材のゆくえについて ・川の流れや石の様子、植物についてなど自然に対する興味・関心 ・自然についての調べ学習の計画とグループごとの調べ学習 ・野外活動での学習の計画、準備と実際の学習 ・学習のまとめと発表
II	自然に親しもう（2）	◇野外活動の経験から、さらに自然について調べたいことを見つける。 ◇自然について調べたいことについて、さらに調べ学習を進める。 ◇野外活動で集めた自然の石や植物を生かし、創作活動をする。	・野外活動で調べたことの復習 ・さらに調べたいことの発表 ・自然について調べる計画 ・自然についての調べ学習 ・1学期から調べてきたことのまとめと発表 ・自然の中で見つけたさまざまなもの ・自然の中で見つけたものを生かした創作活動の計画 ・創作活動
	私たちの生活	◇自分たちの生活の中で、興味のある身近なものを取り上げ、関心をもつ。 ◇作ってみたいもの、調べてみたいものについて調べる。 ◇調べ学習を通して、身近にあるものがどのように作られているかを考える。	・自分たちの身近にあるもの ・好きな食べ物や好きな遊び ・身近にあるものについて調べてみたいこと ・調べ方の工夫
III	私たちの生活	◇身近なものについて調べたいことを話し合う。 ◇自分たちの好きな遊び、好きな食べ物について調べ、道具や作り方、種類などにさらに興味をもつ。 ◇調べたいことを、計画的に調べる。	・自分の好きな食べ物や遊び ・調べたいこと ・材料や作り方について ・調べ方の工夫と計画立て ・校外学習 ・調べ学習のまとめと発表
	1年の学習を振り返ろう	◇1年間の学習活動を振り返り、さらに調べたいこと、研究したいことを話し合う。	・発表会 ・総合的な学習で取り組みたいこと ・調べ学習についての反省

指導者は学級担任の3名であった。

児童の実態から以下の4つが考慮すべき課題として挙げられた。

- ① 本来、主体的な活動である「調べ学習」において、受け身的な様子がみられる。疑問を抱くことも少なく、どんなことを調べたらいいのか分からない、という実態が指摘される。
- ② 「調べ学習」を進める上で、関連した本を探す、人に聞くなどの調べる方法を見つける段階においても支援が必要である。
- ③ 調べたことを理解する力、まとめて表現する力、相手に伝える力が弱い。
- ④ 自ら疑問をもったり、解決したりすることが十分にできない。受け身的である、基礎学力が弱いなどが指摘される。

このような実態・課題から実際に見る・触れるといった経験を多く積むことが児童の心をゆさぶり、自ら疑問をもつために必要であると考えた。事物をじっくり見ること、親しむこと、ふれること、体で感じること等、普段の生活の中ではゆっくりとできない体験を「総合的な学習の時間」の活動として取り入れ、自ら課題を見つけていききっかけにしていきたいと考えた。

児童がじっくりと取り組むことのできる対象として、身近にあるものを取り上げようと考えた。児童の周りの生活用品や遊び道具、何気なく目にしている植物や生物、毎日食べている食事など、これらは、普段の生活において常に児童が使ったりふれたりして、イメージをきちんともっているものである。名称を知っているだけでなく、生活経験によりどのようなものであるかを児童なりにしっかりと把握している。そういったものを対象にすることにより初めての活動への取り組みやすさや楽しさが生まれてくると考えた。

また、学習においては受け身的な児童が、主体的に行動できる場面として行事を取り上げた。行事には学校を離れて学習を行う野外活動や自分たちの思いを表現する学習発表会などがある。そのうち、様々な出会いや貴重な体験が期待される修学旅行や社会見学、野外活動といった行事を総合的な学習の時間の活動内容と関連づけて進めていくことにした。行事のデメリットとして、その期日が決まっていることから学習計画を行事に合わせたり、利用施設などの制約により活動の内容が左右されたりすることも予想された。しかし、児童が主体的に活動できる機会を多くもつこと、その中でさらに活動への意欲を高めていくことを期待し、行事と関連させながら活動を進めることにした。

### Ⅲ 実践

#### (1) 単元・題材

石や草花、木々や川、天気や四季の変化といった自然は、児童の身近に存在し、意識できるものである。また、自然は、身近なものであるので実際に見る、ふれるといった体験が十分にできる。また、その事物も様々であるので興味・関心をいだくことができ、対象も幅広い。

このようなことから「自然そのもの」を題材として活動する内容を1学期、2学期に設定した。A聾学校では、毎年7月上旬に4、5、6年生で野外活動に出かける。自然豊かな場所で自然にじっくりと親しむ活動を行事の中に盛り込み、総合的な学習の時間の活動と関連づけて進めることとした。

#### (2) 対象児童の実態

対象の児童は、4、5、6年生の12名（男子6名、女子6名）である。日頃から児童会活動やクラブ活動などで、共に活動することの多い集団である。聴力と自然への興味・関心、活動における実態を表2に示す。

このグループは、学年の差のみならず、言語力や理解力などにおいても差異が見られる。また、興味・関心の対象も様々である。対象児の実態の開きはあるが、グループごとに活動を進める中で、友達の調べたことや興味をもったことを知ることができ、そこから自分の興味・関心を広げていくことができると考えた。

本実践で取り上げた「自然」は、身近にありながら普段の生活の中では、あまり深くふれることもなく、興味をもつことも少ないものである。児童によっては、自然と自然でないものの区別が付かないという場合もあれば、教科学習の成果として植物の生長に必要な条件を知識として身につけている場合もある。グループ全体の傾向としては、身近な植物でありながら植物と雑草の区別が付かない、星は見えても星座については知らないなど、見たままの姿のイメージから広がっておらず、また生活経験の中で自然に関する知識や活かし方などを身につけていく力も乏しいことが指摘できる。

#### (3) 活動のねらい

本実践では図1に示されるような「活動のねらい」にもとづいて進めることにした。ねらいについては、「子どもの目標となる活動のねらい」と「教師のねらい」の2点を明確にするようにした。

表2 児童の実態

<第4学年>

児童	側	平均聴力 レベル (dBHL)	自然に関すること・活動に関すること
A	右	129 ↓	自然に対する興味は低い。チューリップなどの花への関心は高い。虫などの小動物は「こわい」という意識が強い。パソコンにとっても興味をもっている。辞典や図鑑を見ることに、少しずつ慣れてきた。自然を素材にしたものに関しては親しめるが、知識は乏しい。
	左	88	
B	右	105	自然に対して関心をもっており、日常会話の中でも動植物の名前や体験についての話題がでてくる。辞典や図鑑の見方に少し慣れてきた。挿し絵や写真、説明文をしっかりと見ることができる。手先が器用で、自然を素材にした小物作りでは、自分なりの表現ができると予想される。
	左	100	
C	右	129 ↓	自分の周りの事物や人に対する興味は高いが、自然や動植物に対する関心は薄い。辞典や図鑑を調べることに積極的に取り組める。調べたことを意欲的に発表することもできる。自然の事物の変化や生まれ変わる様子に対して、「どうして」と強い疑問や好奇心をもつことができる。疑問や好奇心から学習を進め、ふくらませていけると思われる。
	左	100	

<第5学年>

児童	側	平均聴力 レベル (dBHL)	自然に関すること・活動に関すること
D	右	91	自然について興味・関心が高い。昨年度の野外活動においても、きれいな石を採集し、採集してきている。興味・関心のある事柄については、集中して取り組むことができる。ことばでの理解が十分でないため、調べたことを伝える、自分の考えを伝えるということが苦手である。視覚的な認知力が非常に高く、細部までよく観察できる。また、観察したことを、絵で正確に表現できる。
	左	91	
E	右	108	自然について感じた感動を素直に表現することができ、興味をもったことについて積極的に取り組める。興味のある事柄に関連する本を探したり、関連するものを見つけたらして、自分なりに調べ学習を進めることができる。調べたことから関連づけて考え、それを文章に表現できる。手先があまり器用でなく、絵や文で表現することを好まない。思考を深める段階で、幼さから自己中心的な考えが見られる。
	左	91	
F	右	98	物事に対してすぐに興味をもつことはないが、周りの状況を見ながら、自分なりに学習に対して興味を高めていくように感じる。興味をもったことについて、本などで調べることができる。調べたことをまだ写している段階である。活動を通して、事前学習、当日、事後学習を自分の中でしっかりつなげ、一層興味をもって学習を進める姿が見られた。
	左	106	
G	右	96	活動的な学習については、大変興味をもって取り組める。ことばより視覚的な理解力の方が高く、興味をもつ事柄も、視覚的なものである。本や辞典を使って調べることは難しいが、友達の見方や活動を見て、自分なりに考えていくことができる。図や絵、写真を手がかりに、活動内容や経験したことをフィードバックすることができる。その中から、見たことを表現したり、疑問をもつことができる。
	左	103	
H	右	119	全般において指示待ちの傾向があり、自分から興味・関心をもつことが少ない。社会見学などでも地名やもの名前は覚えることができたが、興味をもって見学することは難しかった。友達の見方を見たり、聞いたりしながら、調べ学習を進めることができる。しかし、何を聞いていいのかわからないのかという理解は十分でない。関連づけて考えることが難しく、断片的にとらえることが多い。見たこと、経験したことを思い出せたときは、気持ちをそえて発表ができる。
	左	121	
I	右	104	自分の気持ちを表現することが少ないので、興味をもっている事柄について分かりにくい。興味をもった事柄について、自分から調べたいことを発言することが少しずつできるようになっている。教科の学習などと関連づけながら、物事を調べ、考えることができる。集団で調べ、活動することは苦手である。自分の疑問について調べることはできるが、調べて分かったことからさらに疑問をもち、調べていくということは少ない。
	左	111	

<第6学年>

児童	側	平均聴力 レベル (dBHL)	自然に関すること・活動に関すること
J	右	101	自然の事象や変化への興味はあまり高いとは言えない。自分が発見したことについては、興味をもてる。調べる事柄に関連した本や図鑑を見つけ、調べ学習を進めることができる。疑問や分からないことに基づくと、あきらめてしまうことがときどき見られる。調べたことを自分のことばでまとめ、表現することができる。友達とともに学習することで、友達を意識しながら自分の考えを深めていけると思われる。
	左	66	
K	右	106	自然の事象や変化について、興味が高い。最近では、なぜ天気が変わるのか、どうやって自然の事物ができたのかなど、疑問をもつことが多い。テレビや家族からの情報も多く、自然や環境の問題についても知識がある。自分のもっている情報から調べ学習を進め、本に書かれた内容について、文章から理解することができる。調べたことからさらに疑問をもち、学習をふくらませていくことができる。
	左	109	
L	右	95	教科学習をきっかけに、自然の事象や変化への興味が高まっている。知識は多くないが、不思議に思い発見することができる。文章を読みとりながらの調べ学習は苦手であるが、写真や絵を手がかりに、自分なりに調べることができる。調べたことを絵や文に書くことで理解することができる。しかし、関連づけて考えることは難しく、断片的な知識になりやすい。
	左	69	

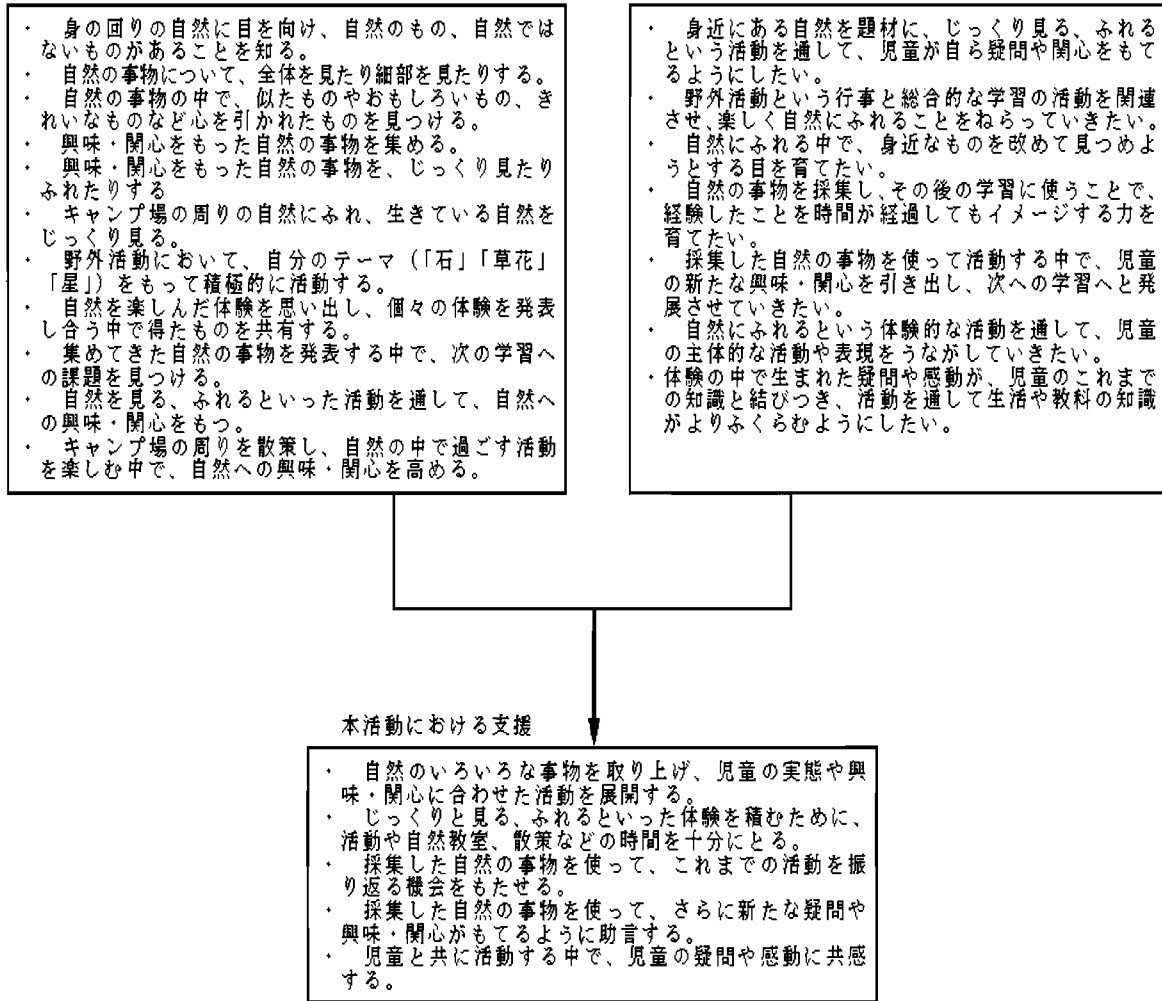


図1 活動のねらい

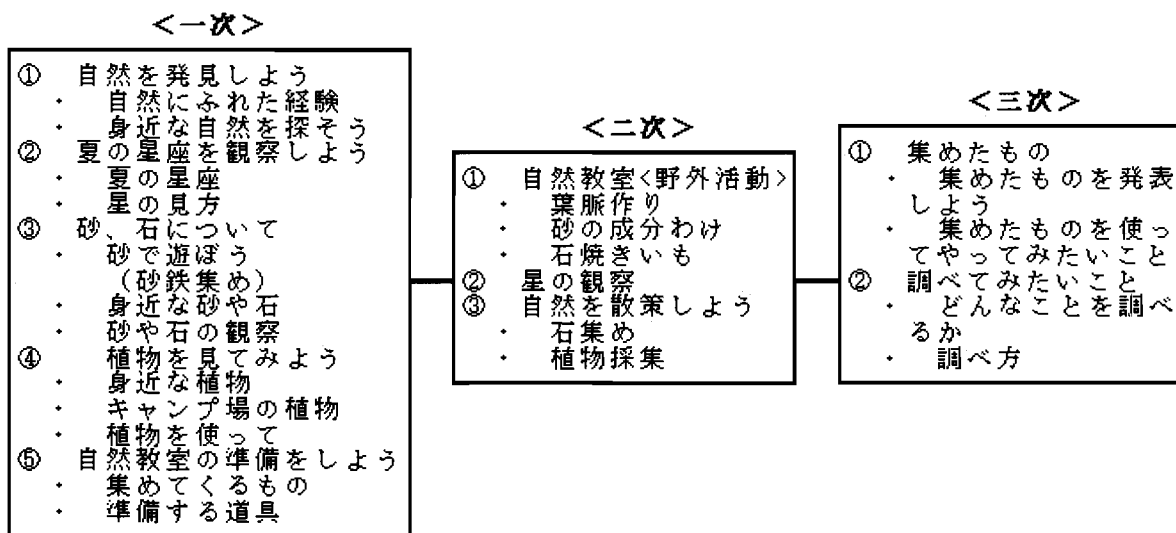
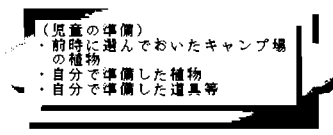


図2 活動の計画

表3 ある1時間の活動の展開

	学習活動と予想される児童の考え	支援(◇)・評価(◆)
前時より5分	<p>○前時の活動を発表する。:小5教室                      &lt;植物を使ってやってみよう!&gt;</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>ルンペで見る。      じゃくを使う。                      調微鏡で見ると。      名前を調べる。                      パソコンを使って調べると。      ましとを調べる。                      本でお面を作る。      ましとを作る。                      お面を作る。      押し花を作る。                      船を作る。      パンを作る。                      船を作る。      スリッパを作る。                      絵色をぬる。      しるしをつける。</p> </div> <p>(児童の準備)                      ・前時に遊んでいたキャンプ場の植物                      ・自分で準備した植物                      ・自分で準備した道具等</p> 	<p>◇前時に扱った植物を配り、学習を思い起こす手がかりとする。                      ◇発表する、発表を聞く活動を通して、前時の学習内容が思い起こせるようにする。                      ◇表現の少ない児童には、個々に声をかけ、発表をうながす。                      ◇自分のやってみようが把握できていない児童がいる場合、一緒に活動する友達や発表や植物の提示から、活動について個々に確認する。                      ◇児童の自由な発表の場とし、本時の活動に意欲的に取り組めるような雰囲気をつくる。                      ◆発表を聞いて、前時の活動を思い出し、個々に関連した発言ができたか。</p>
活動30分	<p>○本時の活動について知る。                      植物を使って、やってみよう!</p> <p>○活動の内容ごとに、分かれて活動することを知る。                      &lt;予定&gt;                      活動グループA:小5教室(I1)                      活動グループB:小6教室(I2)                      活動グループC:小6教室(I3)</p> <p>○グループごとに分かれ、活動を進める。</p> <p>使う道具の確認、準備</p> <p>活動を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで活動する。</li> <li>友達の活動を見る。</li> <li>自分の活動を友達に見せる。</li> <li>活動の中で疑問をもつ。</li> <li>さらにやってみようことを見つける。</li> <li>活動を楽しむ。</li> <li>ワークシートを書く。</li> </ul>	<p>◇本時の活動を知らせる。                      ◇本時の活動については、前時の話し合いにより、前もって3〜6グループ程度に分けておく。                      ◇活動の内容ごとに教室を決め、分かれて活動することを知らせる。                      ◇筆記用具と植物、道具等をもって移動することを告げる。                      ◇自分の活動する場所が把握しにくい児童には、だれと一緒に、先生はだれかなどと個々に声をかけて確認し、活動にのぞめるようにする。                      ◇各教室ごとに、あらかじめ活動に必要な道具を準備しておく。                      ◇児童がもってきた植物や準備した道具なども、活動の中に取り込んで進める。                      ◇児童の「やってみよう」という意欲を大切にしながら、活動を進める。                      ◇活動について、指導者から提示することをできるだけ抑え、児童が主体的に進められるよう助言する。                      ◇自分から活動できない児童にも、活動が楽しめるよう意図的に活動できる場面を設定する。                      ◇活動の中でできた児童の発言、疑問に共感し、意欲的に活動できるようにする。                      ◇表現の少ない児童については、活動の中で意図的に声をかけ、表現をうながす。                      ◇活動によって、新たにやってみようことができた場合、物理的、時間的にできる範囲で取り組めるよう支援する。                      ◇他のグループの活動がやってみようという児童がいた場合は、時間的に余裕があれば取り組めるようにする。                      ◇道具を順番に使う活動を進める場合、使う順番や使い方も、児童の話し合いで進められるよう助言する。                      ◇十分に活動できたと思われる児童には、活動を深める、確認するためにワークシートに記入する。                      ◇活動の途中でワークシートに取りかかろうとする児童には、十分に活動が進められるよう声をかける。(ワークシートに書く活動が、児童にとって主たる目的とならないように配慮する。)                      ◆選んだ活動において、積極的に取り組むことができたか。楽しむことができたか。</p>
まとめ10分	<p>○教室を移動する。:小5教室                      ○活動について発表する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;"> <p>○○をしました。 ○○が分かりました。 すいません、と 思いました。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;"> <p>○○を作りました。 上手に できました。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;"> <p>○○を作った。 ○○をしました。 楽しかったです。 またやってみよう。 ○○で遊びたい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;"> <p>○○を使って、 ○○を調べました。 ○○、○○、○○が 分かりました。だ、 ○○が不思議だな、 ○○と思いました。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;"> <p>今度は ○○をやってみよう。 ○○が おもしろそう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;"> <p>もっと○○が やりたかった。 ○○がうまく できなかった。</p> </div> </div>	<p>◇グループごとの活動に区切りがついた段階で、小5教室へ戻ることを知らせる。                      ◇全員が席に戻り、発表を聞く体勢を整ってから、発表を行う。                      ◇時間がある場合は、できるだけ多くの児童が発表できるように配慮する。                      ◇発表者は植物や制作物などを使って、意欲的に発表できるように助言する。                      ◇発表したことに対して他に感想や意見がでたときは取り上げ、活動について全体で深められるようにする。                      ◇発表を聞くことで、自分の活動を振り返ることができるよう、個々に声をかける。                      ◇ワークシートに記入していない児童に対しては、次時に書く時間があることを知らせ、活動したことからの意欲的に発表できるように支援する。                      ◇児童の発表や個々の発言、意見などから、児童の活動への意欲を感じ取り、ほめる場をもつ。                      ◇もっと活動したい、他の活動もやってみよう、という児童については、その気持ちをほめ、野外活動でたくさんやろう、と声かけをする。                      ◆発表者は、活動したこと、感想をみんなの前で元気に発表できたか。                      ◆自分の思いを発表する、感想を述べるなど、積極的に発表に参加することができたか。                      ◆友達の発表や発言を聞き、本時の活動を深めることができたか。</p>

#### (4) 活動の計画

上記のねらいを達成するために、図2の活動計画を立てた。留意した点は、児童の実態を考慮し、自然の中で具体的に目に見えるものや触れるものをできるだけ対象としたことである。また、この活動を通してさらに新たに活動が生み出せるような流れを意識したことである。その対象となるものは、植物や生物、石や川、星など幅広く設定し、限定するのではなく児童が自分で選べるように考えた。

野外活動では、これまで行ってきたハイキングや川遊びなどの体験の見直しをした。ただ野外に出て体験をする、というだけでなく、これまで総合的な学習の時間において活動してきたことが野外活動での体験の準備となったり、実際の体験で実感したりということができるようにと考え、自然教室という名で活動することにした。そして、一次の段階から自分のやりたいことは何か、という目的意識を常にもって活動できるような流れとその支援を考えながら実践に取り組んだ。

#### (5) 支援の実際

一次の段階では、「〇〇したい」、「調べてみたい」、「何だろう」という思いがなかなか出てこない児童たちに対して、自然の事物を提示し、じっくりと見る、ふれる時間をもつことにした。その中で、子どもたちの心の変化を感じ取り、共感していくようにした。少しでも子どもたちに引かかるものがあれば、様々なものを教材として準備した。子どもたちの心を少しでも揺さぶり、「〇〇したい」という思いを引き出すことが、この一次での大きなねらいでもあった。そのための活動、支援の一つとして、ある1時間の活動の展開を表3に示した。

二次の段階では、一次で決めた活動から実際に野外活動の場で活動を進めた。教師側の予想以上に児童の活動は多岐にわたったが、引率の職員の配置を工夫し、児童が考えた全ての活動ができるようにした。また、野外活動のしおりにそのまま活動の足跡となるよう

に作成した。自分の目的をしおりに事前書き込んでいく欄も設け、自分の活動をしっかり意識して野外活動に参加できるようにした。自然の中という状況や実際に自然の中に在るものを感じながらの活動は、ほとんどの児童にとっては時間が足りない、まだやり足りない、というぐらい活動の時間を満喫していた。

三次の段階では、野外活動での成果を発表会という形で報告しあい、それぞれの活動のよさを誉めあった。支援者からの評価、友達からの評価だけでなく、野外活動後に保護者にも連絡をしており、その活動の様子を細かく伝えており、保護者からも評価をもらうように配慮した。また、野外活動の際の児童のつぶやきやしおりに書いたことを、次の活動に活かせるように把握した。まだまだ全ての児童が、自分から「〇〇したい」という思いが出せるわけではないが、野外活動で自分の決めた活動をとことん取り組んだ、という自信が見受けられた。

表4 G, H, L児の様子と変化

	一 次	二 次	三 次
G児	具体的なものの提示に対して、「なに？」と質問することが多かった。星、水生生物に興味を示す。自分のやりたいことを示すために、自分からつりざおや網を用意してきた。また、星座早見表を持ち帰って、頻繁に見ている様子だった。	現地でどんな活動をするのかをしっかりと理解して、野外活動にのぞんだ。星の観察では、時間が足りないと言うぐらい没頭して観察を行った。魚を捕まえる活動では、活動時間が終わっても、あきらめきれず、二日目の自由時間にも川に入り、最後には魚を捕まえることができた。	魚を捕らえたことから、自分の計画した活動に自信をもち、次にやりたいことをどんどん考えていった。魚の種類や釣り方を調べ始め、その世話も一生懸命に行っていた。
H児	提示された自然の様々なものに対して、なかなか興味をもてなかった。植物や砂を使って工作をする活動の中で、石の模様に興味をもち、自分の家の周りの石を集めてきた。様々な石の模様を見つけ、それらを好きな絵と結びつけやりたいことを決めることができた。	自分から活動することが少ない児童であるが、野外活動では石に絵を描く活動に主体的に取り組む姿が見られた。いろいろな石を集め、そこから形を想像し、色をつけていた。	活動を理解して進めることが少なかったが、野外活動の経験により、自分のやりたいことを考えようとするようになった。発表では誇らしげに石の作品を友達に見せていた。
L児	自分の思いが自分自身ですっかり分からず、どの活動においても始めのころは迷っている様子であった。植物に触れる活動の中で、いろいろな植物の名前を知り、興味をもった。友達が決めたことを聞いてから行動していた児童であったが、植物に関する活動では、自ら真っ先に活動を決め図鑑を買うなどの準備をしていた。	自然教室では、様々な木々や草花を観察し、図鑑と照らし合わせて名前を調べることに没頭した。名前を図鑑で見つけることが喜びとなり、活動自体もとても充実したものになっていた。また、葉の違いや枝の色などにも興味を示し、その疑問をしおりの中に記入していた。	採集した植物の葉や枝を使って、何か作りたいという思いをすでに抱いていたようで、活動決めではすぐに自分の活動を発表し取りかかっていた。作るために必要となる材料を、人に聞くなど自分から働きかける姿がよく見られるようになった。

## (6) 児童の様子と変化

1年目の実践において、児童は教科学習と違う新しい活動に戸惑ってはいたが、行事と関連づけたことで楽しさを味わう姿が見られた。しかし、興味・関心がなかなか引き出せない、興味をもってもすぐに冷めてしまうといった児童の姿も見られた。1年目の取り組みの要諦は、どうしたら活動の意欲を引き出し高めていけるかという点であった。活動が途切れてしまう、前活動が記憶に残っていないなどの問題や情報の乏しさ、受け身的な姿勢といった課題が明らかとなった。こうした課題は、教科学習においても同様であり、従来から聴覚障害児の特性として指摘され、指導の上でも配慮されてきたことでもある。1年目の実践では、このような特性が「総合的な学習の時間」を進める上で、最も大きな課題として確認され、改めて聴覚障害児における「総合的な学習の時間」の取り組みの工夫が必要であると認識された。

本実践の対象児のうち、特に変化が大きかったのはG、H、L児の3名であった。これらの児童を取り上げ、一次、二次、三次での活動の様子と変化を表4に示す。

## IV おわりに

A聾学校では、「総合的な学習の時間」の実践は、平成12年度から開始された。「とりあえずやってみよう」というところから開始したものではあったが、児童は教科学習とは異なる新しい活動の中で様々なことを学ぶことができたようだ。興味・関心の薄い児童がどのようにしたら活動の意欲を引き出し、高めていけるのが課題であったが、支援者の関わり方が大切であることを改めて認識した。また、教材の準備は実際にとっても大変なものではあったが、そういった苦労を経て、教材について支援者自身が理解を深めることが、児童の心を揺さぶることにつながったと思われた。

児童の変化や姿からこの1年間の実践においていくつかの成果が得られた。しかし、その一方で、より効果的な支援の方法や聴覚障害児に合った「総合的な学習の時間」の進め方について検討する必要もあると思われる。聴覚障害児教育においては、これまで教科の指導やことばの指導などで、聾学校ならではの専門的な指導法が行われてきている。「総合的な学習の時間」はまだ始まったばかりであり、聾学校における「総合的な学習の時間」の実践を今後も進めていきたい。

## 文献

### 1) 全日本聾教育研究大会研究集録

\* この研究集録は、我が国の聾学校の教育実践が全国規模で討議される集会の論文集である。2005年で第39回大会を迎えている。